

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和6年12月末現在）

今月の重点活動

■担い手 「令和6年度新規就農者激励会」を開催

12月13日、新規就農者の意欲高揚と地域農業の活性化を目的に令和6年度新規就農者激励会を開催した。

当日は、担い手育成に関わる飛騨支部の指導農業士、青年農業士、女性農業経営アドバイザー、県市やJAなどが参加し、新規就農者6名に対して県知事からの「ぎふ農業担い手証書」を授与した。意見交換会では、新規就農者の疑問や悩みに対して、指導農業士や青年農業士などが自身の経験をもとにアドバイスし、新規就農者らは熱心に耳を傾けていた。

農業普及課では、地域農業の維持、発展を担う新規就農者の育成と定着のため、就農支援塾を開催し、経営安定に向けた支援をしていく。



【新規就農者激励会の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手 「家族経営協定調印式」開催される

12月25日、高山市農業委員会主催で家族経営協定調印式が開催された。調印式に出席した6戸の経営体は、後継者が就農したタイミングで、経営ビジョンや役割分担、労働時間、報酬などについて、家族内で話し合いながら協定書を作成した。当日は高山市農業委員会会長、飛騨農林事務所長、高山市農政部長の立会いのもと、協定書への調印が執り行われた。

調印式に出席した後継者からは、「飛騨地域の農業を支えるよう頑張りたい。」「できるだけ早く一人前になれるよう取り組んでいく。」など決意表明があり、今後の飛騨の農業を支えていく担い手としての自覚と力強さが感じられた。

農業普及課では、今後も親元就農した後継者も新規就農者として位置づけ、サポートチームによる伴走支援を行っていく。



【家族経営協定調印式の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト 「儲ける農業」について研修会を開催

12月2日、JAひだ農業管理センターにおいて、飛騨野菜出荷組合トマト部会員約100人が集い、産地全体研修会が開催された。

研修会の冒頭、今年度のトマト生産・販売状況を振り返り、次年度の取り組み方針等が決定された。その後、今年度から農業者の経営状況把握と経営力向上を目的に岐阜県が取り組みを開始した「儲ける農業者育成支援事業」の中から、農業簿記データを活用したトマト経営の見える化に関する研修を行った。

講師である（一社）農業利益創造研究所の平石理事長からは「会計データから見た岐阜県トマトの経営の特徴」と題し、他県競合産地との比較や、理想的な経営モデルについて提案があった。

農業普及課では、今後、JAとともに生産者との個別面談を実施し、栽培技術に加えて、安定した経営を継続するための助言・支援を行っていく。



【研修会の様子】

■ほうれんそう 令和6年 飛騨ほうれんそう販売反省会開催される

令和6年12月に高山、丹生川、清見・荘川、高山南、吉城、高原の各蔬菜出荷組合のほうれんそう部会において、販売反省会が行われた。

本年度は3月の雪害により作付け面積が減少するとともに、梅雨明け以降の高温の影響などから、昨年に引き続き少ない出荷量で推移した。これを受け、各部会では本年度の活動状況や生産販売状況を念入りに振り返る反省会となり、農業普及課からは、高温に対応するための遮光資材の活用方法や、適正なかん水管理などの栽培技術について説明を行った。

農業普及課では、今後、生産者との個別面談を実施し、本年度の栽培管理の課題を振り返り、次年度の安定生産に向けた栽培技術について支援していく。



【反省会の風景】

■水稲 「水稲担い手交流会」開催される

12月19日、JAひだ主催の、「水稲担い手交流会」が開催された。この交流会は、飛騨地域3市1村の2ha以上の担い手137経営体が対象で、当日は約70名の参加があった。昨年度に引き続き2回目の開催となり、昨年度よりも交流会に参加する生産者が増加した。

交流会では、農業普及課や全農、資材メーカー等が、水稲において高温条件で問題となる「白未熟粒」や「胴割れ」の対策、飛騨地域でも発生が確認された難防除雑草「ヒレタゴボウ」の対策等について講義を行った。講義後には、ヒレタゴボウの飛騨地域における分布状況や効果的な除草剤の散布などの質問があり、生産者の関心の高さがうかがえた。

農業普及課では、今後も地域再生協議会やJA等と連携し、高温対策等の栽培支援を行い、担い手の良食味生産や経営安定に向けて支援を行っていく。



【交流会の様子】